

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市ニッ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	令和元年 8月27日	評価結果市町村受理日	令和元年 9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2375601016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和元年 9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしさ”を大切に、地域の中で“普通の生活”を送ってもらえるよう支援する事を理念とし、出来る限り以前の習慣や馴染みの場所を大切にしている。その取り組みとして、毎朝の散歩を習慣にしていた方に近所の公園を散歩してもらったり、馴染みの喫茶店へ個別に外出支援をし、お店の方や地域の方々との交流を継続できるようにする等行なっている。また、地域の行事にも積極的に参加をし、市の福祉まつりへの作品展示や、敬老会への参加、地域の音楽会にホームの入居者で構成された合唱団“あまケローズ”として合唱の披露をしたりし、地域の方との交流を深めている。また今年あまケローズとしての新たな取り組みとして、昔趣味としていたピアノ演奏を再び練習し音楽会で披露するなどした。地域のなじみのお店による施設での移動販売も継続して半年に一度行なっている。その他には、施設内にある機械浴の使用ができる等複合施設内のホームならではの良い点もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“その人らしさ”を大切に、出来る限り以前の生活からかけ離れたものにならないよう、月に一度馴染みの場所を訪れたり、地域の行事に積極的に参加や地域に昔からあるお店に移動販売をしてもらう等している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の公園に散歩に行く際にグランドゴルフをしている方達と挨拶を交わす等交流をしている。また地域の音楽会へ合唱団として参加をしたり、地域のお店による移動販売も年に2回継続して行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の福祉まつりに入居者の方が作った作品を飾ることで地域の方にグループホームという施設を知ってもらうきっかけを作っている。地域の音楽会に観客ではなく出演することで地域の方に認知症の方への理解が進むよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回市の職員や地域包括支援センターの職員、地域住民の方に出席してもらいそれぞれの立場から意見や要望聞き、普段のサービスに活かしている。その際、困っている事等を高齢福祉課の方に相談するなどしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加をしてくれている為、定期的に現状報告や相談が出来ている。何か困った事があれば電話やメールですぐにやり取りができる関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で委員会を設けており月に一回委員会に参加し、その都度事例検討を行なっている。また内部研修にて身体拘束についての理解を深められるよう努めている。またスピーチロック等についても日頃から注意を払っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	去年より一年に1回接遇や虐待チェックシートを活用し、自己評価を記入してもらい自分自身の介護についてを見つめ直してもらう機会をつくっている。また記入について気になることがあれば部署責任者が面談を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している入居者の方もみえ、制度理解は少しずつ相談員以外の職員にも進んでいるがまだまだすべての職員には理解は深まっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容については必ず入居時に口頭でも説明をし、その都度疑問等ないか確認をしている。また契約を取り交わす前にも入居前の確認をし家族に理解してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時に本人の様子や状態を伝え、家族の希望や疑問等に耳を傾け、意見が言いやすい関係作りに努めている。また入居者とは出来る限り一対一で話ができる機会を作り本人の希望や不安を傾聴できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度ミーティングにて意見交換をし、各担当の要望や意見が反映できるよう努めている。年一回勤務評定を行ない面談の機会を設けているため、その際に意見や要望についても話をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年勤務評定を行ない、接遇面や専門性等を部署責任者、施設長が評価を行なって面談をしている。今年度より賞与の参考として反映するよう法人全体での勤務評定の取り決めを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・中堅・リーダー研修等経験年数に合わせた研修をおこなったり、外部の研修についても全職員がいけるよう配慮している。また法人内の施設にて実務者研修を開校し受けられるようにし、働きながら資格の取得ができるよう進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回市内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行なったり、業務についての相談を行なったりしている。ただ、行事の交流等は法人以外では行っておらず、今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、荷物を本人と一緒にチェックし、その際、本人と話をしながら何か不安な事がないか、配慮している。また入居時には自己紹介の機会を作り、同性の方とテーブルを隣席にしたり配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際には必ず家族がどんな介護サービスを求めているのか希望をきき、何か不安な事がないかを聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前には、自宅もしくは利用しているデイサービス等へ訪問し、現状の本人の暮らしの様子を把握しホームへ入居した際はこういったケアが必要なのか見極め対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や畑等、入居者が以前から行ってきた得意なことには一緒におこなってもらい、時に本人からやり方を聞く等することで本人のやる気や自信につながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には可能な範囲で外出や外泊を協力してもらえよう声をかけている。また行事の際一緒に介助を手伝ってもらったり、面会時に本人の希望している外出先(墓参り等)をお伝えし、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くの神社等を巡り、写真を撮りアルバム作りをしたり、毎日習慣だった近所の喫茶店へ行くことも出来る限り継続できるようにしている。またケアハウスへ移られた仲の良い入居者に会えるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席については仲の良い入居者同士にしたりし配慮している。また職員の声掛けでなく入居者同士で食事や入浴の声掛けをしてもらったり、入院している仲の良い入居者のお見舞いに行く等、共に支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設(ケアハウスや特養)に異動された方については異動先の職員や面会時にご家族と話し、今何か困っていることはないか積極的に支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居の方が「いつも行っていた喫茶店に行きたい」「仲の良い入居者と一緒にでかけたい」ふいに話したことを流すことなく外出支援に繋げていっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族やケアマネから情報を聞き、今までの生活歴等から今後ホームでどのような生活を送ってもらったらいいかを家族や本人の希望をききながら反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録内には時系列でその方がどんな過ごし方をして何ができるのか何に困っているのか把握に努めている。また各々の配慮事項をケース記録内に記入し、職員間で共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングをアセスメントを行ない、担当職員からの意見も参考にカンファレンスを行いプラン作成している。カンファレンスへの家族の参加はできていないがケアプランの実行の際に家族にも協力してもらっている方もある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入は毎日出勤者全員が気付いた事を記入するようにし、職員間で共有している。また毎日ケアプランの達成状況についても見直し、コメントを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内で各部署が使用できる座浴機を設置した為、今まで浴槽のまたぎが出来ない為入居が難しかった人にもグループホームでの入居が可能となった。また併設デイサービス利用されている妻に会う時間が作れるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉まつりへの作品展示や、敬老会への地域行事に積極的に参加している。また、入居者の方で結成した合唱団「あまケローズ」として地域の音楽会に積極的に参加することで達成感を感じれるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず入居前に家族へかかりつけ医の希望を確認している。現在はほとんど協力病院を主治医となっているが、認知症の専門的な病院は家族が元々の病院を継続して受診してくれる等協力してくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回Nsが出勤する際、必ず日頃の状態や変わったことがないか伝えている。また、何か相談したいことがあればすぐに相談できる環境であり、処置や受診の指示をすぐに受けられる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは日頃から密に連絡を行なっている。入院時には必ずムンテラへの参加も行い、家族の意見を聞きながら早期退院ができるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今現在の家族に終末期の希望を聞きグループホームでの生活がどこまでは可能であるのか十分説明をし、了承をもらっている。また、家族の希望については看護職、介護職員みんなが共有できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生法のやり方や急変時の対応について勉強する機会を作っている。また、急変時の連絡方法等についても研修にて再度確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で毎月防災訓練を行っている。また、風水害想定やあま東部消防署と合同で行なう総合防災訓練も行っている。地域の自主防災訓練や今年から市の総合防災訓練にも法人として数名参加し車椅子の操作方法を教える等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては指示口調にならないよう気を付け、介助の為居室やトイレへ入る際にも必ずノックをし、一言声をかけてから介助にあたるよう気を付けている。また、昨年より一年に一回接遇チェックも実施し、自己評価してもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時には衣類を本人に選んでもらったりし、また食事について誕生日には本人が好きな物を聞いたり何か食べたい物はないかきいている。思いが表しにくい方はいくつかの選択肢を設けて選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間やお茶の時間等ある程度の目安の時間は決まっているが本人の体調や状態に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧する方の居室には化粧台を置いて化粧を楽しんでもらっている。また入浴時も衣類のコーディネートについて本人に確認したり、外出の際はいつもよりおしゃれな物を選んで外出を楽しんでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや料理の手伝い等それぞれ行えることは一緒に手伝ってもらっている。また、それぞれの誕生日には本人の好きな物食べたい物を聞きホームで提供したり外食をしたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に応じて刻んだり分食や時間をずらしたりし、摂取量が増えるよう工夫している。また、体調不良時にはおかゆを提供したり、水分量の少ない人には水分摂取表を記入し、本人の好む飲み物の提供をしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科衛生士の方にきてもらい、口腔ケアを行ってもらっている。何か問題がある時には歯科医とも連絡を取っている。また歯磨きについても本人の状態に合わせて見守りや物品の準備等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツ+パッドに変える等し、不必要に紙おむつ等の使用がないよう努めている。また、尿量の多い方にはこまめにトイレ誘導をし失敗が少なくなるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日出来る限り散歩をしてもらったり、水分量が少なくならないようこまめに水分摂取を促す等している。また毎日常に乳製品をとってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おき程度に入浴の声かけをするが無理には進めず本人のペースで入浴してもらっている。午後からだて疲れてしまう方には午前中に声をかける等体調にも気をつけ声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音楽を聴くことが趣味であった方には音楽を居室で楽しめるよう家族とも協力しながら環境を整えたり、日中食後にソファーや自室で休憩を少ししてもらったりし休息の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてはその都度変更があれば各職員が何のために処方されたのか情報共有に努めている。また必ず服薬後の経過についてDrやNsに報告相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方には洗濯物たたみや料理の手伝い等それぞれの能力に合わせて行なってもらっている。男性の方には新聞を事務所に取りに行ったり、ゴミ捨て等を一緒におこなってもらうなどし、ホームの中で役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に昔馴染みの喫茶店へ行く等個別の外出支援を行ったり、気候の良い時期には本人の習慣であった毎朝の散歩に出かける等もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承がある方に限っては自分でお金を持って施設内の売店や自販機で自ら購入している方もみえる。また、移動販売の際や外出時の買い物の際できるだけ本人に支払ってもらえるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えがある時には公衆電話を使用してもらったり、職員が間に入り事務所から電話をかけ話してもらっている。手紙のやり取りは年賀状が送られてくることはあるが手紙を書くことはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	直近の行事の写真を飾ったり、それぞれ季節にあった(ひな人形や七夕等)飾りをしている。また入居者の方々が作った作品を飾ったり、庭には季節の野菜や花を育てている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビング内にはソファを用意しそこで休憩したりうたた寝したりしている方もみえる。また、廊下の日の当たるところに椅子を置き、そこに座って日なたぼっこしている方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から自宅で使っていた家具を持ってきてもらったり、化粧をする方に化粧台を持ってきてもらうなど、それぞれの生活にあった居室にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前には大きく看板をつけたり、居室が分からない方にも目印等をつけ、分かりやすくしている。居室内も本人が動きやすいよう家具やベッドの配置をし、気を付けている。		